

看護実践・キャリア 支援センター通信

看護基礎教育

看護学科学生へのキャリアデザインプログラム

2017年度

Vol.11

平成29年4月6日 学生へのキャリアデザインプログラム事業の一環として、平成29年度入学の1年生入学時オリエンテーションにおいて、高橋美雪看護部長兼看護実践・キャリア支援センター長から、看護のキャリア形成について説明がありました。学生がキャリアシステムについて理解し、看護師としての将来像を明確にできる事を目標にしています。その内容は1年生が入学時のオリエンテーションに、2年生は臨地実習に出る前に、3年生は臨地実習終了後を通して、自身のキャリア発達についてイメージできるよう、それぞれの時期に応じてキャリア形成に関する話をします。1年生と4年生を対象として、学生自身の看護師としての将来像を明確にできるよう、本年度は11月29日宇都宮宏子先生を招いて講演を予定しています。

また、1年次から4年次までの学生のキャリア志向の変化を把握し、個々に応じたキャリアデザインプログラムの開発につなげるために、学生へのアンケートを実施し、個々のキャリア志向の振り返りに活かせるよう、「キャリアデザイン発達の記録」というファイルを、学生自身で、4年間の軌跡としてファイリングしていくこととしました。

今年度1年生へのアンケートの結果、ほとんどの学生が看護を学び、学生生活を送ることに意欲的、肯定的にとらえられていました。しかし、学ぶ事には意欲的な反面、将来の目標は定まらず、明確でない学生も少なからずいることがわかりました。このプログラムが自分自身の看護や看護師としての将来像を考えるきっかけになってくれればと願っています。



看護実践教育

発達障害の理解と対応

平成29年5月13日（土）発達障害についての正しい理解と具体的な対応について学ぶ事を目的として、奈良県立医科大学医学部看護学科学科長 人間発達学教授 飯田 順三先生、奈良県立医科大学附属病院 精神医療センター 臨床心理士 田中 尚平先生のお二人にご講義いただきました。看護部、看護学科より合わせて58名の方が参加されました。

発達障害の概要、基本症状などを踏まえ、様々な障害と特性が見られることから、理解されない生きづらさや、仕事のしづらさにつながっていることなどを学びました。対応する側も、発達障害の特徴を理解できていないことから、コミュニケーションがとりづらい、対応に困るなどの原因になっていたことに気づく事ができました。臨床心理士の先生からは、具体的な事例を示していただき、対応には時間、根気が必要な事を学びました。環境の調整や相互に理解し合えるコミュニケーションについてなど、発達障害についての理解が深まった講義となりました。実際対応に困っている方々からの熱心な質問もあり、関心の高さがうかがえました。解決が難しいと感じられている方へは、受診や相談窓口なども示して頂きました。解決への一助となればと思います。

参加者のアンケートの結果は、98%の方が「わかりやすかった」、「現場で遭遇する問題の解決につながるヒントは得られたか」の問いには89%の方が「そう思う」と回答されました。満足度については、98%の方が「満足」と回答されました。寄せて頂いたご意見を紹介しますと、「発達障害の概念から対応について、詳しくわかりやすかったです。職場においても、対応については今後役立つ内容でした。環境調整が大事であるし、正確な相手に合わせてのコミュニケーションの積み重ねが大事だと理解できました。」「自分の今までの関わりについて考えさせられた。勉強になったけど、一人では無理なのでみんなにも伝えて行きたい。」「一人での対応では限界があり、負担となる。多数の方との協力やサポートを分かちあうために伝えて行くことが大切。」などです。前向きにとらえていただける有意義な講義となったように思います。



キャリア支援サロン

「音楽療法ってなあ〜に？」

前年度までのヨガ教室にかわり、看護職員の方々のメンタル面のリフレッシュを目的として音楽療法を取り上げることにいたしました。

平成29年5月18日 音楽療法士の 高本 恭子先生にお越し頂き、「音楽療法ってなあ〜に？」と題して、看護管理職を対象に、まずは音楽療法を知ってもらえるような研修を行いました。3名が参加されました。

音楽療法は能動的音楽療法、受動的音楽療法に大別されており、日本では患者の病態にあった音楽を即興で、あるいはCDなどで聞かせるという治療者主体の音楽療法が広く行われているようです。

今回の研修でもCDでの音楽鑑賞を中心に行われました。懐かしい選曲に癒やされたり、リズムに乗って自然と体が動いたりしました。高本先生は、障害児学級での実習に始まり、認知症と音楽、外科、整形外科での痛みと音楽を研究され、登校拒否や、長期欠席の児童や生徒との交流、ターミナルと音楽、キレない子供を育てる音楽の研究など豊富な経験から、それらの事例も紹介されました。対象者の病態、年齢、発達課題、生育歴などの生活背景や情報を元にアセスメントし、カウンセリングも含めた音楽療法としての関わりについて紹介して頂き、音楽療法について学ぶ事ができました。

参加者のアンケートでは、音楽療法について、“理解できましたか” “音楽療法を必要と思われるスタッフ、学生に勧めてみたいと思いますか” “満足できましたか” という問いに、ほぼ9割の方から肯定的な意見を頂きました。参加頂いた方の中には「音楽を聞いて、先生のカウンセリングの言葉、話し方によって涙が出そうになりました。」「病院の外来や病棟でも取り入れられたらよいと思います。」「先生の話が聞けてとても楽になりました。」などの意見もあり、受け入れて頂けたようでした。

次回は、9月の新人看護職員向けに音楽療法の研修を予定しています。



地域貢献

認知症予防および認知症を持つ患者への対応力向上研修

平成29年6月24日（土）院内、院外の施設から、63名の参加がありました。奈良県立医科大学医学部看護学科 老年看護学教授 澤見一枝先生より認知症予防について、疾患の病態を踏まえ、生活習慣病や、ストレスとの関係とその予防について学びました。スマイルプラスカンパニー 介護アドバイザー 小山久子先生による認知症の方へのレクリエーションの実際では、頭と、手足を同時に上手く動かさず、思わず苦戦しながら、世代を超えた楽曲を知っておくことの大切さを学びました。奈良医科大学附属病院 認知症看護認定看護師 池内勝継先生 山本妙子先生によるグループワークでの事例検討では、院外の施設からの看護師との交流もあり、視野を広げることができました。認知症患者の対応を考えるなかで、患者の思いに立ち返るといふ基本を再認識した研修となり、満足の声を多く頂くことができました。アンケートから一部を紹介させていただきますと、「教えて頂いた手遊びなど、訪看の現場で利用者さんと楽しみながら、おこなってみたい。」「病棟でも、認知症の勉強会をしようと思っており、今回の講義がわかりやすく、楽しかったので参考にしたいです。」「認知症の問題行動ばかりに目がいってしまい、行動の抑制を行ってしまうことが多かった。今後は患者の目線にたって考え、ケアを提案できればと思います。」などです。よりよい看護につながることを願っています。



平成29年度 看護実践キャリア支援センター事業 開催予定

- ① キャリア支援サロン「音楽療法」講演会
平成29年9月14日（木）、15日（金） 16:00～17:15 対象：新人看護職員
- ② 地域貢献 「明日から使える褥瘡予防、治療の知識と技術」研修
平成29年10月21日（土） 10:00～15:00
- ③ 看護基礎教育 キャリアデザインプログラム
「病院の時代から地域包括ケアの時代へ ～夢をもって看護を語っていますか？～」講演会
平成29年11月29日（水） 16:30～18:00 対象：看護学科学生 附属病院看護部職員